

第1回

阿南高校と地域の発展を考える シンポジウム

- 開催日時 令和7年8月21日（木曜日）午後2時半より
- 開催場所 阿南文化会館
- 主催 阿南高等学校同窓会
- 共催 阿南高等学校協力会（阿南町 下條村 売木村 天龍村 泰阜村）
阿南高等学校 阿南高等学校PTA
- 後援 飯田市 下伊那郡町村会 信濃毎日新聞社 中日新聞社 南信州新聞社
週刊いいだ 月間・タウン情報いいだ NHK SBC信越放送
NBS長野放送 TSBテレビ信州 a b n長野朝日放送
飯田エフエム放送 飯田ケーブルテレビ（順不同）

【日 程】

14 : 30

○開 会

○主催者挨拶 阿南高等学校同窓会長 宮島 喜文

○来賓紹介

○学校概要説明 阿南高等学校長 牧内 千明

○問題提起 阿南高等学校同窓会ワーキンググループ座長 木下 長義

○基調講演 1 兵庫県立村岡高等学校教諭 今井 典夫

○基調講演 2 鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸

～休憩～

○パネルディスカッション

進 行 筒井 一伸

助 言 者 今井 典夫

パネリスト 阿南町長 勝野 一成

地域代表（ナピカ経営者） 杉本 文良

阿南高等学校長 牧内 千明

阿南高校PTA会長 片町 元彦

ワーキングG座長 木下 長義

17 : 00

○閉 会

【講師紹介】

○今井 典夫（いまいのりお）兵庫県立村岡高等学校 教諭

① 高校の教師を41年（再任用5年）

- ・兵庫県立千種高等学校12年 1985年（昭和60年）～1996年（平成8年）
- ・兵庫県立村岡高等学校29年 1997年（平成9年）～2025年（令和7年）
- ・担当教科 理科（化学）・表現（スピーチ）・地域探求
- ・担任18年、生徒会2年、生徒指導部長21年（継続中）
- ・教育相談委員会31年（継続中）
- ・部活動顧問:男子バレーボール部・スキー部
- ・高校魅力化推進委員会メンバー
- ・「学びが地域を創る」（学事出版）編著者

② 地域の文化サークル創設（20～30代）

- ・地域の方々と一緒に文化サークルを設立
- ・サークル内に和太鼓部門を創設
- ・小中高生向けの太鼓教室を開講し、和太鼓の普及を始める
「この地に生まれ、この地で生きてよかったと実感できるような文化を創り出そう！」

③ 「香美町協働のまちづくり推進会議」のメンバーとして活動

- ・第2次香美町総合計画（2016～2025年）策定に参加
- ・町民参加型の協働によるまちづくりの推進「自分たちこそがまちづくりの主役」
- ・まちの将来像策定 「こどもたちに夢と未来をつなぐ町」

○筒井 一伸（つついかずのぶ） 鳥取大学地域学部地域創造コース 教授

- ・1974年、佐賀県生まれ。東京都育ち。
- ・島根大学法文学部法学科卒，大阪市立大学大学院文学研究科地理学専攻修了。
- ・愛知県豊根村地域間交流支援専門研究員などを経て，2004年に鳥取大学に着任。博士（文学）。
- ・専門は農村地理学・地域経済論。
- ・高校における地域探究活動に早い時期から関心を持ち，兵庫県立村岡高校では2011年から地域創造類型のカリキュラムづくりに関わる。
- ・関連する業績として『学びが地域を創る——ふつうの普通科高校の地域協働物語』（2022年，学事出版，編著）など

阿南高校特色化に向けての提言書概要

— 地域とともに歩む学校を目指して —

（提言の背景と目的）

阿南高校は1950年に地域の強い要望から誕生した普通高校であり、70年以上にわたり地域の教育と人材育成に貢献してきた。しかし現在、急激な過疎化と少子高齢化により生徒数が激減し、学校の存続が危機的状況にある。阿南高校がなくなると地域の衰退が加速する恐れがある。この提言は、学校と地域の存続を一体の課題としてとらえ、関係者の連携と具体策を通じて、阿南高校の特色化・魅力化を目指すものである。

（課題認識と現状分析）

地域の中学卒業生数は減少を続け、令和20年には30人程度と予測。現在の阿南高校の在校生は約122人。過去の取り組み（平成30年の魅力化提言等）にもかかわらず、存続の危機は依然として深刻であり、長野県教育委員会も少子化への対応として「再編基準の保留」「特色化」など新方針を打ち出している。

（提言の柱）

1. 地域と高校の共存共栄

- ・高校の存続は地域の存続発展と分かちがたく結びついた重要課題。地域住民・行政・教育関係者の連携が不可欠。地域と高校の協働は高校の存続発展のための必須・基盤条件。
- ・あらためて地域資源を活用した教育（探究学習、文化・スポーツ活動）の深耕により生徒の地元愛を育て、将来的なUターンを促す。

2. どういう学校と生徒の育成をめざすのか、教育哲学の明確化を

- ・高校全入時代、一人ひとり人間力を引き出し、自主性に満ち、自己肯定感の高い生徒を育てる。
- ・基礎学力の強化を大切にしつつ、社会的能力（考える力、表現する力、ともに行動する力など）の習得、向上をはかる
- ・教育方法は徹底した少人数、親切・丁寧・寄り添いの実践
- ・学力の今日的な意味と生徒の成長と地域高校の役割は何かを常に問い続ける高校

3. 域外・全国からの生徒募集と循環型教育

- ・民泊・学寮などで域外・全国からの進学希望者を受け入れる体制を構築。
- ・小中学校と連携した「ふるさと教育」の推進と、地域探究学習・人間力発揮の教育を通じて、地域に戻って活躍する若者の育成を目指す。

4. 特色ある学科・コースの設置（普通科に加え、以下のような特色コースを設置）

- ・医療・介護系

- ・情報ビジネス系
- ・地域学・文化探究
- ・SDGs・環境防災
- ・アウトドアスポーツ
- ・英語・国際進学コース
- ・少人数教育、探究的学び、自己肯定感の向上に重点

5. 人材・施設・支援体制の強化

- ・教員の確保（定員基準の柔軟運用）、教育コーディネーターの配置
- ・地元町村による財政的支援（奨学金、学寮支援など）
- ・地域・高校連携の「協議会」や「プロジェクト」「人材プラットフォーム」組織の設立
- ・大学との連携（例：松本大、法政大、愛知大など）を通じた教育支援

（参考とする全国事例）

村岡高校（兵庫）、加計高校（広島）、南三陸高校（宮城）、島前高校（島根）など、過疎地でも学寮と特色化により存続・発展している高校の事例を紹介。共通点は地域と高校の「協働」「魅力ある内実づくり」「ウィン・ウィン」の関係性。

（まとめと提言の本質）

- ・阿南高校は「地域になくてもならない存在」になることが重要。
- ・地域の人々、行政、学校・教育関係者が一丸となって行動すること。
- ・魅力的な教育内容と安心できる学習環境を整備し、域外からの生徒も呼び込む。
- ・すべての子どもたちに「ここに来てよかった」と言ってもらえる学校をめざす。

※全文をご覧になるには下記QRコード参照

